



1 Iの直前に「柄や色」とあるので、「柄や色」について述べられている八行目前後の内容に着目する。指定字数に気をつけながら、あてはまる言葉を探すとよい。

2 「おとなの悲劇」の内容は、十六行目〜十八行目で述べられている。

空欄前後の「名まえを知りすぎてしまった」「よく見なくなってしまう」という言葉と対応する箇所を本文中で探すと、「名を知ってしまうと、もうその名に安心し、たよってしまっ、よく見ることをしなくなります」とある。

3 最後の段落で、子どもの「コップ」のとらえ方について述べられている。

1 空欄の後に、善意が外国人に通じなかったときのエピソードについて詳しく述べられている。

2 日本人に対してすることを、外国人にもしてしまおうということ。
日本人に対してすることを、——線部①の前の部分から探すとよい。

3 相手かまわず贈りものをやることは相手の何を「無視」している行為なのか、本来贈り物は相手の何を知ったうえでどの行為なのかを考える。

4 鼻をあかす〓だしぬいたりして、優位に立っていた相手をびっくりさせること。
手のひらをかえす〓態度を急変させるさま。
顔をつぶす〓面目を失わせること。また、名誉を傷つけること。
腹を割る〓本心を打ち明けること。

1 「味音痴」とは、——線部①直前の「いくらおいしいものをく感動しない」ことである。
文章を読む場合、「おいしいもの」と「口に入れる」は、どの言葉に置き換えられるかを考える。

2 ——線部②を含む段落で、「何回食べてみても味が変わらない」ものが名文とされている。
文章を読む場合、「食べてみても」と「味が変わらない」は、どの言葉に置き換えられるかを考える。

3 「天下の珍珠く嫌いであるというようなことになったら」と、二文前の「ほかの人がく好きになれなければ」は似た意味の内容である。

4 空欄直後に「説明より実際に口に入れてみる」とある。
うそも方便〓嘘をつくことはいけませんが、時と場合によっては嘘が必要なきもあるということ。
人のふり見てわがふり直せ〓他人の行動を見て、良いところは見習い、悪いところは改めよということ。

論より証拠〓あれこれ論じるよりも証拠を示すことで物事は明らかになるということ。
百聞は一見にしかず〓人から何度も聞くより、一度実際に自分の目で見るほうが確かだということ。



課題作文

「ギャグをまねること」や「言葉づかい」に関する自分の考えを書く。